

行ってらっしゃい ツバメ達 来年も日本で子育てを!

北区立東十条小学校
第6学年

① 研究した理由

私は、4年生・5年生とツバメの研究を続けてきた。4年生ではツバメが巣を作る条件を調べた。ツバメは、日差しに返しが~~あり~~建物の外に電線があるなおかつツバメに理解がある人がいるところに巣を作る事が分かった。5年生では私の学区である東京都北区東十条のツバメの帰来率と、1シーズンに2回以上子育てをする割合を調べた。帰来率は約56%、1シーズンに2回以上子育てをする割合は約83%だった。帰来率の全国平均は約40%なので私の住む街は、ツバメに選ばれた街であるといううれしい結果に終わった。こうして私のツバメへの愛は3年目に突入したわけだが全国的にはツバメの個体数は年々減っているという。ツバメのヒナは巣立った後、冬するための秋の「渡り」までの日々をヨシ原で過ごす。せめて子孫を残すために、私達日本を選んでくれたツバメがより良い環境で人間と共生し、その個体数が増えていく事を願ってヒナ達が巣立った後、秋に日本からフィリピンやマレーシアなどに渡りをするまでの過ごし方や、ツバメ達を取りまく環境について、調べる事にした。ヨシ原がどんな所なのか気になった私は、東京で巣立ったツバメ達が集まるヨシ原のねぐらを見に行きた。北区内で見つけた



日本ではツバメ界でも少子化です。



↑ JR立川駅で見つけた、ツバメのヒナを待つ



↑ ツバメを育てているお母さん、宝もここに作られた巣



② 予想

私は、ヨシ原がどんなところか予想した。ヨシ原は、ツバメ達のゆりかご(ねぐら)になるのだから、3m以上のヨシがうっそうとしていて、天敵から身を守りやすい上、エサとなる虫が生息しやすく、ツバメが生態系の中で頂点に立っている場所ではないだろうか、と予想した。

③ 調べ方

ツバメのねぐらになっているヨシ原に実際に行ってみる。まずインターネットでねぐらの場所を調べる。日本野鳥の会が配布している「ツバメのねぐらマップ」も参考にさせていただいた。比較的関東では大きなねぐらであると言われている、東京西部を流れる多摩川の日野市と昭島市を結ぶ多摩大橋下流(住所は東京都立川市富士見町6丁目)のねぐらに通って、集団ツバメのねぐら入りやそこに自生している植物、環境の変化を観察していく。このねぐらに集まるツバメの数は、7月下旬から8月上旬にピークになり、2023年には約2万羽がねぐら入りしたと推定されている。



④ 結果

ヨシ原は、多摩川中流域の中州にあった。ツバメは、日中はヨシ原周辺にはいなかった。日中そこにいたのは、体長1m弱のタサギとウグイス、たまたま飛んできたスズメだった。私が観察を続ける中で、毎週同じ男性がツバメを観察しに来ている事に気付いた。話しかけてみると、その方は何年も関東各地でツバメの観察を続けてきた方で、貴重なお話を聞く事が出来た。その方によると、ツバメは昼間は親鳥の縄張りや雛の訓練や虫をつかまえる訓練をしているそうだ。また、昔は十数か所もあった多摩川の中州ねぐらは、現在は2か所に減り、もう1つのねぐらは多摩川下流の東京都大田区六合にあるそうだ。

8月3日(土) くもり時々晴れ ねぐら入り時32℃
18:00 数羽のツバメが多摩川上空を旋回している。
18:40 100羽程のツバメが集まって多摩川上空を飛んでいるがまた数羽散りに飛んでいった。
18:45 「日の入り」中州のヨシ原の上流側に400羽程のツバメが飛んでいる。それ以外の内ヶ谷、アサギ、ヨシ

8月10日(土) くもり 30分程のゲリラ豪雨あり32℃
18:00 200羽程のツバメの群れが3つ現れた。水面から8mくらいのかなりの低空飛行だ。
18:36 「日の入り」ゲリラ豪雨が発生。水面をたたきつけるような勢いの雨だ。
18:50 ツバメが四方八方から800羽程集まり、中州のヨシ原上空を

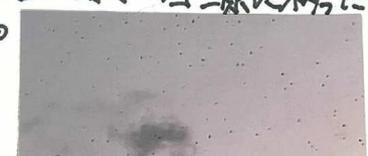
8月17日(土) 晴れ 32℃
台風17号の翌日、川は増水していて、ゴゴという音を鳴らし白波が立っていた。よく見ると、一部のヨシが水浸ししていた!
18:10 ツバメがヨシ原の上空に500羽程集まり旋回している。
18:28 「日の入り」 ツバメ達はそれぞれ自由な方向に飛んでいる。

しげみへ吸い込まれるようにスッと入っていた。
 19:03 12000羽程のツバメが川の中州にあるヨシのねぐら上空を飛んでいる。日の入り後も西側の空はまだうすら明るい。
 △群れから外れた1羽のツバメが夕方に追われていた!
 19:05 ほぼ全羽ねぐら入り。
 19:25 辺りはすっかり暗い。望遠鏡を使って観察している方が夜のそかきもつた。ヨシ原の中に光る点がある。ツバメ達の目だ。ヨシの葉に止まってもすぐには目を閉じない。また木列を見たような幻想的な風景だ。
 19:30 しげみの中の光はほぼ消えた。
約16000羽 ねぐら入り

飛び回っている。くもり空は非典型的
 18:52 1000羽程のツバメが上空を旋回している。先週よりも低いところを、大群で飛んでいる。空はまるでまき塩ご飯のようだった。ねぐらに入っていくツバメもいるが、上空に集まるツバメの数はどんどん増えている。
 19:10 ツバメ達が先週とはちがって群れで一斉にヨシのしげみへ入っていた。日の入りは先週より早い。ゲリラ豪雨のせいか、ねぐら入りの時間が先週よりおくれた。
 19:15 辺りはもう暗い。ツバメ達はヨシの葉に止まっていた。ヨシの葉の上に無数に光る目があった。しばらくするとライトアップの数は減っていた。

約2800羽 ねぐら入り
 ツバメの観察を続けている方によると、ツバメが雨の時に低空飛行するのは、雨にぬれこ重くなったツバメのエサとなるトンボやカガ下の方を飛び、それを食べるツバメも、低空飛行するからだとも考えられているそう。この日、ツバメは中州のヨシ原だけではなく、対岸のヨシにも止まって眠っていた事を知った。

18:31 ツバメの数は3000羽を超えた。ツバメ達は低空飛行している。
 18:37 1000羽程のツバメが食事をしながらぐるぐる大きな円を描いて飛んでいる。
 18:48 ツバメ達がヨシに入ったり出たりし始めた。
 18:52 ツバメ達は、ヨシ原をかきまわすにまどまど飛んでいる。一部のツバメはヨシの中に入っていた。
 18:54 だいたいのツバメがねぐらに入った。
 18:56 ハヤブサがはて来た。が、守りに失敗したため、ヨシ原を去っていた。

約2800羽 ねぐら入り
 ツバメの観察を続けている方によると、ツバメ達は多摩大橋の北にある、昭和用水のヨシ原に移ったそう。 



また、多摩川の水辺の土手を歩いている時、その道の左右にヨシの背たけをはるかに超える高さの植物がかべの様にそびえ立っていた。その植物のつるは、地面をはうように下側をのびていて私の行手を阻んでいた。

5 分かった事

ねぐらになるヨシ原は、ツバメにとって安全な乗場だと予想していたが、全くちがた。もう人類などの直接的な外敵はもちろん、大雨で川の水位が上がり、ツバメが止まれるヨシの面積が減ってしまったりと、厳しい自然をツバメ達は生きぬいていた。また、土手だけの道の様に私の行手を阻んだ木植物。その名はアレチウリだ。セイタカアワダチソウ(キトリウ)や、アレチウリに似ているクスマもたくさん生えていた。アレチウリとキリンソウは外来種で、特にアレチウリは、日本の生態系などに重大な被害を及ぼす「特定外来生物」に指定されている。今回私が見たヨシ原は、たまたま中州にあった。ヨシは水没しても水深1mまでたえる事が出来、他の植物では根をはれない砂泥質に生える事が出来る。しかし、このヨシにツルでからみつき、一番高くのびていたのがアレチウリだった。ツバメは、足元が安定しないアレチウリの葉の上では夜をこす事が出来ない。つまり、特定外来生物のアレチウリが生育し過ぎて、ヨシ原の面積が減る事により、築立ったばかりのツバメ達が安心して暮らせる場所が減っている。これがツバメの個体数を減らしている原因だ。

6 感想

ツバメは私達人間を言らして巢作りをするのに、その個体数を減らしているのが人間だと知り、申し訳ない気持ちになった。ツバメ観察全国ネットワークでは、ツバメ子育て中用のポスターや、フタ受けの台紙を無料でダウンロードできる。ツバメのヒナが葉から顔を出している間、見守る人達はいるが、渡りまでの時期の環境について考える人は少ないだろう。アレチウリなどの外来種は、持ち込んだ私達の手で駆除しなければならぬと思った。調べてみると、アレチウリを駆除する会も開きされているらしい。この研究が終わっても、私のツバメ観察への情熱は終わらない。大人になったら、自分の家を建て、人工巣を設置したり、外来種を駆除するなど、ツバメと人がより良く共生する努力をしたいと思う。ツバメ達!来年も会おう!

ヨシ(ツバメのねぐら)の天敵
 キリンソウ アレチウリ クスマ

ヨシの葉とヨシにからむアレチウリ →

ヨシの新芽 ↓

7 参考文献

八王子・日野カワセミ会 kawasemi-main.jp/index.html • ツバメ観察全国ネットワーク tsubame-map.jp/top
 日本野鳥の会 wbsj.org • 産経ニュース sankei.com/article/20180725-070w2rH2VJ1W4EX1WQQR6JHSE/
 行ってらっしゃい!!!